

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム千音寺
(ユニット名)	かほり
所在地 (県・市町村名)	名古屋市中川区富田町文字千音寺間渡里2883
記入者名 (管理者)	酒井かず子
記入日	平成 19年 5月 24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「利用者様をありのまま受け入れます」と事業所独自の理念を作成し、リビング内に目にみえる所に飾り、日々実行し能力を生かし、自立した生活が送れるように支援します。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念・行動方針を施設内に掲示し、職員全員が日常生活の援助の中に理念を活用し全体ミーティングで理念を共有し、理解を深めています。	○ 毎月、曜日を決めてミーティングを開き十分理念を理解するように、実践されているかを話し合う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	民生委員会への参加や公民館活動への参加をし雨天以外は、常に散歩に出かけるよう心がけ、地域での参加を進んで行っています。	○ 地域包括支援センターとの連携を図り、昼食会・ボランティアとして受け入れ地域密着型居宅介護サービスの理念を周知していく。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	積極的に外出の計画を立案し、地域の方にグループホームを理解していただくためにも天気の良い日は買い物や外食などを行っています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	色々な行事に参加し地域との交流を図り、身近なグループホームとして気兼ねなく来ていただけるよう日々努力しています。	○ 自治会や老人会の行事に今後も積極的に参加するよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携を図り、作品などを地域の方々に知っていただくためにも、地域支援センターなどに作品を飾っていただき高齢者の能力と暮らしを知っていただきます。	○	ふれあいネットワーク・包括支援センターとの連携の強化。地域の皆様に、利用者様の能力を理解していただきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議で話し合い、原点に立ち寄り見直すことで外部評価を理解し、利用者様の支援を日々改善に努力しています。	○	評価を受け結果を受け止めより良いサービス提供するためにも支援内容を見直し勉強のため他の施設を訪問します。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族など地域の方々の参加により運営会議を定期的に関き、地域との連携を色々な角度から意見交流をしサービス状況の感想を話し合う。	○	地域との連携を深めて、多くの専門の方々に参加していただく方向で開催義務が実務多忙のため間隔が開きがちでありできるだけ規定通り開催していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の保護係と相談し、サービスの質の向上のためにも常に指導とアドバイスを受けています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について理解を深め、権利の大切さを理解し必要に応じて現在活用しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について理解を深めるように外部からの情報により定期的に研修会に参加し虐待の防止に努めています。	○	虐待防止の徹底を継続し周辺の情報を含め研修会に積極的に参加していくことにより、虐待防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約の際は、利用者や家族の不安解消の為、十分に説明を行い強引な契約は結ばないようにしています。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ミーティングの曜日を決め、職員全体で話し合い利用者様の意見を聞き入れ、日々質の良い援助を行うように努めています。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎日の実践の中で、利用者様の健康状態などを、面会時などに口頭で伝え面会が少ない家族の方には電話や手紙で連絡しています。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>外部評価を実際に活用しアンケートに家族の方に参加していただき問題によっては苦情の内容を提議し不満の残らないように努力しています。</p>	○	ご意見をいただけるように意見箱を設置しアンケート以外にも苦情・不満を即座に解決し対応すること。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>気づいた点は全体会議で話し合い職員の意見にも耳を傾け提案を聞くようにしています。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>数回にわたって話し合い離職や退職までの時間を確保し円滑な引継ぎを行いダメージにならないように、職員と相談し最低限に抑えています。</p>	○	利用者に困惑がかからないように十分な引継ぎを行い利用者様の状況などをみて、異動を考えるようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知対応型協同生活介護について理念を深め定期的に研修会の紹介があった場合は参加し関連の介護施設で実務研修を行い資格取得を評価していく。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問しネットワーク作りに取り組みサービスの質の向上を目的とし研修の中においても動作、ケアのあり方にチェックをし本人に注意をしていく。	○ 地域と同業者との交流を大切にし情報交流や連携を深める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の慰労会を開き職員同士の交流を深め職員のストレス軽減のため日々努力しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強し資格に向け取り組み介護福祉の資格取得への評価を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	こちらから訪問したりして登録前に利用者様との話し合いの時間を大切にし、不安解消のため相談の機会を設けています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相互訪問しネットワーク作りに取り組みサービスの質の向上を目的とし研修の中においても動作、ケアのあり方にチェックをし本人に注意をしていく。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用の可能性も含め総合的に情報収集し家族の思いを理解し、利用者様にとって一番良い方向で取り組み他のサービスの紹介も行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の要望があれば契約前にお試し利用も考え少しつつ利用者様に馴染んでいただけるよう、介護支援を行い不安なく泊り利用に継続できるように工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花を植えたり縫い物をするなど活動を通し利用者様から職員に教えてもらう事や励ましてもらうことが多くあり支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや悩み、希望について話し合い家族の考えを常に心に置き喜怒哀楽を共に支えていく関係を築きます。	○	誕生会やクリスマス会などの行事に参加していただき出来る限り希望を取り入れ職員・利用者・家族との一体感を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時を利用し状況や健康面を伝える。面会に来られない方には電話で情報を連絡しよりよい関係が築けるよう努めています。	○	利用者様の様子を新聞にして各家族に配布し理解を深めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来所してもらったり施設内のデイケア、デイサービスを活用し馴染みの関係を維持します。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話や態度を留意し必要に応じて職員から解決を目的とした相談を行っていきます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	次のサービス機関との連絡を取ったり契約終了後も利用者や家族に対し、関係を継続しています。ご縁のあった方には最後までお世話させて頂く方針です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の話しをお聞きし表情や行動に変化やサインを見逃さないように努力しています。又利用者の趣味や特技をも取り入れます。	○	利用者本人の思いが聴き取れない困難な方は家族と相談し支援にあたっていきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との生活の中で更に生活暦等を含め利用者本人の暮らしを理解するように努める。	○	ケアプランの中に、馴染みの暮らし方環境を取り入れ生活の質の向上に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを大切に介護支援の中にできる事はやっていただきできない事は支援するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員同士のミーティングの中に家族からの意見要望を取り組むよう心がけてます。その結果必要であれば家族や他の関係者とも話し合いを行っています。	○	ご家族からの情報交換を行い利用者様の意見、思いを第一と考えています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録で状況や変化を見つけ、利用者や家族の意見も取り入れ6ヶ月の見直しを行っているが何か問題が生じた場合はその状況に必要な応じて即対応している。	○	利用状況を十分に注意し介護計画と照合し問題点がある場合はすぐに解決する方向でいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様毎に介護記録に事細かく記入し情報を共用し計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々に応じて臨時の通い・泊りなど希望を受け入れグループホーム・デイサービス・デイケア・リハビリと多機能性を活かし、業務を行っています。	○	利用者や家族の意向に対応し柔軟な体制を整え多機能性の良い利点を活かしていきます。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との協働を常に図り定期的に運営推進会議を開き地域の協力と理解を得ています。	○	理髪など職員の家族により週2回ボランティアの協力を得ています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用希望があった時は他のケアマネジャーと連携を図りスムーズに利用できるようにしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域支援センターとの協働することにより包括的な支援を考える為総合的かつ長期的なケアマネジメントに向け協働しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の受診方法や普段の注意事項など指示を受けるために主治医の月2回の往診・受診を行いかかりつけ医の方は継続しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が疑われるなど進行と思われる状況時には認知症に関する診断や治療の支援を受ける方向で地域の専門医との連携を築いています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	バイタル測定を日々行い問題点や健康状態に異変がある時看護師と医師との協力を常に受け日常の健康管理を行っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のソーシャルワーカーや看護師と面談しなじみの職員が出向き、不安解消の為コミュニケーションを図り又情報交換に努め、早期退院できるように連携を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医や家族と話し合い終末期に何が一番大切かをご本人とご家族ならびに主治医と繰り返し話し合い全員で方針を共有します。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の意向に沿うための対応方法を主治医や家族を含め話し合いをして高齢者の介護支援を考慮し重度化や終末期に向け対応がいつでも出来るよう話し合いを行っています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の方の現状を知り住み慣れた環境を維持することによりダメージを最小限におさえた住み替えができるよう話し合いなじみの環境を築きたいと考えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は利用者の目につきにくい場所に保管し個人のプライバシーを重視し言葉掛けや対応に十分注意しプライバシー確保に努めます。	○ 「個人情報保護」に関することはご家族やご本人に個人情報について同意書をいただいています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	小さな決定権から希望につなげ大きな決定については相談に応じ自己決定の支援を行い利用者の希望に沿った生活になっているかを振り返って考える。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクへの参加不参加は必ずご本人の意向を確認しその人らしく暮らしていただける為にも体調やペースに合わせて支援を行っています。	○ 利用者のリズムに合わせて施設の都合ではなく希望に添って日常生活を送っていただけるように心がけて柔軟な介護支援を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	高齢であっても、身だしなみやおしゃれができるよう支援し、理容・美容は、地域の協力を得ています。	○ 地域のボランティアの方に毎月来ていただき取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者の方も参加していただき食事がただ栄養とは考えずおいしく楽しんでもらえるような工夫をし会話を楽しみながら食事をしていただきます。	○ メニュー板を作成し目につく場に置きテーブルには生花を飾って暖かな家庭的な家庭的な雰囲気です。食事を楽しんでもらいたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな物を選んでいただけるようにし個人の好みに合わせ寝つく前に梅酒を適量楽しんでもらっています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方のタイミングにあわせたトイレ誘導を行い個人の行動にあわせてプライバシーに配慮しチェック表を元にその時々に合わせて声かけ誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックをもとに、希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらっています。	○	入浴は清潔維持も含めて気分転換のためにも楽しんでもらい利用者の意向を尊重し強制とならないように努める。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中散歩などを行いリラックスできる環境も築き、安眠や休息の支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	作品作りが好きな方には作っていただき縫い物が好きな方には縫い物をなじみの生活経験をレクに取り入れ、喜び・笑顔の見える支援を行っています。	○	利用者の希望に応じて職員と一緒に資源を利用し作品を楽しんでもらっています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買物へ行き、金銭の受け取りを行ってもらっています。状況により個別に支援をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて天気や気温に配慮し地域の喫茶店やファミリーレストランも利用しています。	○	利用者の希望を尊重し可能な限り希望を叶えるため近所の方やボランティアの協力を得ていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの外出を提案し職員の状況を考慮し利用者の方が行きたい場所を聞き実行しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人、年数回希望時には支援を行いプライバシーを保持し毎年年賀状も含めて手紙を書くことなどの支援を行う。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で迎えお茶などを飲んでいただきコミュニケーションの場として友人知人のなじみの方々にきがるに訪問していただけるように工夫しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止の意味を十分全職員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	研修を通して身体拘束をしないケアの取り組みとしてスピーチロックの防止に努めています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は基本的にしない方向で努力しています。	○	鍵をかけないケアの実践をしなるべく自由に出入りできるように心がけています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動に注意深く観察し安全確認を行いフロー内居室など昼夜プライバシーを保持しながら安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入浴時には時計・メガネ・補聴器など脱衣かごに入れます。必要以上に危険と思うのではなく個人の状態に応じて危険を防ぐようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを、事故発生時に記録しミーティングなどで発表し話し合い事故防止につとめています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時には主治医に連絡し高齢者に最も多い誤嚥性肺炎を職員全員で理解し緊急時にも初期対応できるように努めています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、日頃地域の方々に協力を得られるように働きかけています。	○	監視緊急連絡装置を設置し避難訓練を地域の方々に参加していただきグループホームを理解していただきたいと考えます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	主治医健康状の意見を聞き態を家人の方々にも理解してもらい日常生活でのリスクにも関心を持ってもらうように説明を行います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々体調の変化や異変に気を配り個人の状態を考えバイタルチェックを行い医師に相談し対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬と薬効を記入し常に確認できるように往診時に個人の健康状態に応じた薬が出される為記録し服薬時には誤薬防止に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下痢や浣腸も利用しますが基本的には飲食物の工夫や身体を動かすように働きかけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員が利用者の状況に合わせた援助を行い歯みがきを通じ毎食後、一人一人に声かけ・援助をし口腔内の清潔保持に努めています。	○	口腔ケア専門医の協力を得ていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分管理の必要な人には細めに併設クリニックと連絡を取り毎食後、摂取量を記録し問題点がある場合は医師や栄養士に相談し健康維持に努めています。	○	栄養士との連携を図り食事時間に余裕を持ち食べられる気分の時に食べてもらうようにしばらく食事を残し食べてもらう方向に考えます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い方法を洗面所に汚物処理室には汚物処理方法を掲示し感染予防の本があり全職員に読んで予防・対策に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理者の健康状態管理にも重視し台所を清潔にしタオル・ふきん・おしぼりは漂白剤を利用し新鮮な食材で調理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい玄関を作る為に季節の花を植えて安心して出入りができるように工夫しています。また「子ども110番の家」に登録も取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋ごとにおしゃれなカーテンを設置しドアには好きなネームプレートを選んでもらい認知症を理解し大人の雰囲気を作るように心がけています。リビングには常に生花を飾り居心地の良い空間づくりを工夫しています。	○	生花により季節を感じてもらいレクなどで出来た作品をリビングなどに飾っています。発表の場にも活用しています。作品の照明やリビングの照明には考慮しています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーマット・イスやテーブルの設置に気を配り昔ながらの畳の部屋を利用していただき交流の場にも活用しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたなじみの道具を居室に置き転移によるダメージを最小限にし居心地に良い空間作りに努めます。配置はご本人の好きな所に置いてもらうことを基本とします。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置しエアコンや加湿器などにより体調に合わせた温度調整に努め日中と夜間との温度の変化にも配慮しています		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり必要に応じて手すりなど取り付け身体機能を活かし安全な環境づくりを行い危険防止に努めます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ドアには目じるしとなる物を貼ったり取り付けにより個人の残存機能・能力に合わせた支援を行い混乱や失敗にも笑顔で対応します。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と共にプランターの花を植えたり建物の外周に植えてある立木や花を散歩時に楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム千音寺は、現在（整形外科・リハビリ施設の充実・デイケアサービス・デイサービス・グループホーム）多機能的に業務を行っています。利用者様やご家族